

# 安全情報

平成26年 4月15日

非血縁者間骨髄採取認定施設  
採取責任医師  
輸血責任医師各位

公益財団法人 日本骨髄バンク  
ドナー安全委員会

## 自己血の取扱いについて(通知)

拝啓

時下、ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素より骨髄バンク事業の推進に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このたび非血縁者間骨髄採取時に骨髄提供者に対して返血すべき自己血が関連部署間の連絡不備及び確認もれにより返血されなかった事例が2件(別紙)報告されました。

つきましては、別紙内容についてご確認の上、適切にご対応くださいますようお願い申し上げます。

今後とも骨髄バンク事業の推進にご協力の程お願い申し上げます。

敬具

## 「自己血の取扱い」に関する本委員会の見解

### ■再発防止について：

非血縁者間骨髄採取術における自己血輸血においては、以下の点に留意して頂きたい。

- ① 非血縁者間骨髄提供者の速やかな社会復帰を考慮した自己血採血・返血は、採取責任医師及び輸血責任医師の責任下で、確実に採血・返血されるよう麻酔科医師と意志疎通を図ること。
- ② 骨髄採取術施行にあたり、麻酔導入時・患者退出前には必ず自己血貯血量・自己血返血量をスタッフ全員で確認すること。
- ③ 自己血返血タイミングは、原則として骨髄採取開始後とする。
- ④ 骨髄採取終了後、採取責任医師もしくは輸血責任医師は、自己血返血が完了していることを確認すること。なお、自己血を帰室後に返血する場合も同様とする。

以上

### ■本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人 日本骨髄バンク

ドナーコーディネート部 折原・関

TEL: 03-5280-2200 FAX: 03-5283-5629

# 事例報告

	症例 ①	症例 ②
事象	骨髄採取時に、自己血 600ml を返血する予定が、自己血 400ml のみ返血され、未使用の自己血 200ml は輸血部に残存していた。	骨髄採取時に、自己血 400ml 返血、残りの自己血 400ml を病室にて返血する予定であったが返血されず、輸血部に返却され保管されていた。
措置・経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退院時 Hb13.7g/dl で、貧血症状なく、自己血返血量を確認せず輸注完了したものとして帰宅させた。</li> <li>・骨髄採取 16 日後、輸血部職員から未使用の自己血 200ml が残存していると連絡があった。</li> <li>・当該骨髄提供者については、骨髄採取 20 日後の術後健康診断時に謝罪、退院後自覚症状もなく Hb14.9 で問題がないことが確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・800ml を術中に入れるよう麻酔科医に伝えたが、400ml を返血したところで採取終了。</li> <li>・採取終了後、残 400ml を採取担当医が麻酔科医に病棟での返血の指示をしたが、その指示が看護師・主治医に伝わらず、かつ、主治医は 800ml が術中に完了していると認識した。その後、6 日後に輸血室から連絡があった。</li> <li>・骨髄採取 9 日後の来院時にドナーに謝罪、貧血による症状がないことから骨髄提供者本人と相談の上、残存自己血は破棄した。</li> <li>・ヘモグロビン推移 入院時 14.3、採取当日(3 時間後) 12.4、採取翌日(24 時間後) 12.0 術後健診時(14 日後) 12.6</li> </ul>
原因・要因	思い込み・連絡不備・確認もれ	思い込み・連絡不備(連携)・確認もれ
対策・改善措置	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.麻酔科医師に、骨髄採取開始後早めに自己血返血を開始し、できるだけ術中にすべてのバックをつなげるよう心掛けてもらう。</li> <li>2.手術部看護師から病棟看護師への申し送り時に、残存自己血バックがある場合は輸血部に返却せず、病棟ですべて返血するよう伝える。</li> <li>3.骨髄提供者の自己血が輸血部に返却された場合は、輸血部職員から病棟へ自己血が返却されていることを連絡する、翌日まで残っている場合は血液内科医師に連絡する。</li> <li>4.退院前に担当医が自己血が全て返血されていることを確認し、カルテに記載する。</li> </ol> <p>以上を今後の対策として関連部署に周知徹底することとした。</p>	今後、当院でこのようなことが起きないように麻酔科、輸血部、小児科、看護部で対策を立てるようにする。